

### 秋の一泊研修旅行

十一月六〜七日 秋の一泊研修旅行参加者二五名は朝九時新宿を出発、中央高速を一路勝沼に向った。バスのナンバーが88、朝方降った雨も昼前には日差しも見え幸先良いスタート。十一時頃武田信玄の菩提寺恵林寺に着き、お昼には山梨市下井尻の井尻邸に到着、三千坪の敷地の邸宅に入り、夢窓国師の作と伝えられる庭園、近年井尻氏が利休の草庵以前の書院風小間を復活されたと言う茶室頌文亭を拝見し、全員で昼食の懐石膳を戴いた後、大俵氏のお点前でお濃茶を戴き、素晴らしい体験をさせていただいた。

午後井尻邸を辞し、一路石和温泉のホテル富士へ。ホテルでは四時から一時間第六回セミナーで今日の社会状況を招いた原因としてのアメリカの占領政策、東京裁判などについて田邊理事長のご講演を拝聴した。懇親会の後は各自自慢のカラオケや高橋弘・上条さんの江戸下町芸かつぽれなどを楽しんだ。翌日はすっきり晴れ上がり昇仙峡、ぶどう狩を楽しんで高速の渋滞も無く予定より早く新宿に着した。



今度の研修旅行は中村折本、尾川さんをはじめ、お茶の用意を含め、各担当の万端の準備があつて大変充実したものとなった。又行き返りのバスは尾川さんの絶妙なガイドで退屈する事無く大変楽しいものとなった。(高橋史郎記)



#### 平成二四年の行事報告

- \* 二月六日(月) 第六三回セミナー「新春文化の集い」、講演「私の惹かれた日本文化」 呉善花拓殖大学教授。
- \* 五月十七日(木) 第六四回セミナー「これでいいの日本の教育」参議院議員義家弘介氏。国会議事堂見学。
- \* 八月八日(水) 家族の日、第六五回セミナー「家族・地域・国家の再生について」 井尻千男拓殖大学名誉教授。
- \* 十一月六〜七日秋の山梨一泊研修旅行。



「家族の日」設立趣旨を読む平野理事

#### 新役員選任

五月十七日新役員が定時総会で選任された。  
理事長以外の新役員  
副理事長 中井盛久(元NHK理事)  
理事 石井明(上武大学教授)  
関町肇(長岡大学講師)  
平野寛明(主権回復記念実行委員会事務局長)  
長久保如玄(経済学博士)  
監事 菅功生  
顧問 西雅弘

#### 平成二十二年度寄付者

- (敬称略)  
七万円 田邊拙、四万五千円 守屋敏子、三万六千円 廣瀬一美、二万円 東海林令子、合田三条子、一万円 山川紀子、宮本清子、酒巻京子、上野實、五千円 中村元子、立野友章、三千円 尾川美佐子、浅野明子、一千円 鶴田信子

#### 平成二五年の行事予定

- \* 二月八日(金) 第六七回セミナー「国民の油断」(日本の歴史教育にこそ問題がある)、講師は新しい歴史教科書を作る会理事・拓殖大学客員教授藤岡信勝氏。
- \* 五月八日(水) 第六八回セミナー「演題」講師とも未定。
- \* 八月八日(木) 第六九回「家族の日」セミナー。講師・高橋史朗明星大学教授。
- \* 十一月八日頃 研修旅行

#### 編集後記

当協会は法人化四年目を迎え、年三回のセミナーも一五〇名までの参加者を迎え、充実したものとなりました。一層の国興しを目指したいと思ひます。(高橋記)

#### GJF入会のご案内

当協会にご入会を歓迎いたします。  
年会費：個人三千円 法人一万円  
電話：〇三・五六八・三三二二 FAX：〇三・五六八・三三二五  
までご連絡をお待ちしております。

# 日本興しの会会報

GJF 協会第58号  
一般社団法人 Gジャパンフロンティア協会 〒136-0071 東京都江東区亀戸 2-8-11 アドリーム亀戸 1F 102 TEL.03-5628-3312 http://www.gfrontier.com/g-japan

### 新理事長に 田邊拙氏就任

2012年5月17日衆議院議員会館に於いて定時会員総会が開催され、一部役員が退任し、新しい役員が選任されました(詳細は第4面参照)。  
創設以来務めて来られた廣瀬一美理事長も退任される事となり、新理事長に田邊拙氏が就任されました。

### 出雲の旅と決意

副理事長 中井盛久

今年、我国最古の歴史書「古事記」が編纂されて一三〇〇年という記念すべき年です。第五〇代天武天皇が太安麻呂に命じ元明天皇の代、和銅五年に完成させました。



多くの遺跡からは三五八本の大量の銅剣がみつかりました。しかも戦争に遣った形跡がないという安定した平和集落だったようです。

この機会に古事記をよみ、出雲大社、古代出雲歴史博物館、国譲りで有名な船佐の浜、大蛇退治の須佐之男命を祭る須我神社等縁の地を巡ってきました。

出雲大社の境内で発見された巨大な宇豆柱などから、古代造営当時の本殿は高さ四八米もあつたことがわかってきました。当時としてはスカイツリー並の高層巨大建築です。

### 家族、地域、国家の再生について

井尻千男 拓殖大学名誉教授

終戦は国際法上サンフランシスコ講和条約が発効した昭和27年4月28日が正しい。戦争末期に命を捨てても共同体を守ろうとした日本人をどう統治するかがGHQの最重要課題だった。先ずGHQは日本が作った憲法草案を却下し米国人スタッフに作らせた。次にGHQは共同体の解体に手を付けた。



GHQは神道を禁止した。日本人の共同体意識は大変強固なものだった。一つの民族、言語、天皇(25代)がこれ程続いたことは世界の奇跡であり、アメリカはその正反対の極にある。日本を再びアメリカに敵対しないようにしなければならぬ。これで日本人を過去の歴史から断絶させ、共同体から切離すことができると考えた。

大震災に際し、戦後破壊されたと思つていた共同体の連帯、協力しあいながら、整然とパニックを起こさない秩序が保たれ、立ち上がつていったことに世界が驚いた。ここに日本の歴史がある。我慢すれば公が必ず援けてくれると信じた。公の体現者が天皇である。天皇の大御心に私心はない。世界が驚いたのはその「公を信じる心」だった。これが日本史の宝である。ヨーロッパの国家や共同体から離

脱して建国し、奴隷を使つてきたアメリカが人種や宗教性、出身国による差別を禁止する法律、「公民権法」を制定したのはたつた48年前の1964年のこと。1980年代レーガノミックスで競争原理をフェアネス(公正さ)として推し進め、その後の貧富の格差を拡げることとなつた。儲かるのは人の御蔭と考え、自分の力と過信しない。それが日本のアメリカとの違いであつた。ヨーロッパ各国を回つて、食料の自給率は愛郷心の関数であることに気づいた。イタリア75%、フランス120%に対し、日本は39%。嘗ては日本も100%であつた。価格差はあつてもそれなりの風土的理由があればそれを甘受する。愛郷心、愛国心があれば外国のものは買わない、食べない。一円でも安い商品を探して少し離れたスーパーに走るの賢い消費者ではなく、市場原理に踊らされた愚かな消費者である。それによつて地域の絆が失われるマインナスの方が大きい。日本人はGHQによつて壊された共同体の意識を取戻さなければならぬ。